

平成19年5月24日

## 耐震計算の誤入力に係る再発防止に向けてのお願い

日本原燃株式会社  
社長 児島 伊佐美

社員及び協力会社の皆さんには、原子燃料サイクルの確立という使命のもと、日頃業務に精励していただき、ありがとうございます。

さて、使用済燃料受入れ・貯蔵建屋内のチャンネルボックス切断装置及び燃料取扱装置の「設計及び工事の方法の認可申請」における耐震計算において入力データに誤りがありました件については、4月18日に公表の後、鋭意、事実確認、原因調査、再発防止対策等の取りまとめを行い、5月11日に原子力安全・保安院に報告書を提出するとともに、県及び村にご報告しました。

今回の事象は、平成5年当時、機器、装置の設計・建設を行う元請会社が耐震設計に関する計算を同社の関連会社に依頼した際、当該関連会社の社員が解析コードへデータを誤って入力し、それを確認すべき関連会社の上司及び元請会社、さらに当社もその誤りに気付かず、設工認申請をしてしまいました。その後平成8年になって確認すべき立場にあった上司が誤りに気付いたにもかかわらず、その後ずっと誰にも言い出せなかったという事象でした。

当社として、その事実を知らなかったとはいえ、その誤りを発見し、是正できずに、結果として、誤ったデータで設工認申請を実施していたことを事業者として厳粛に受け止め、元請会社、関連会社の皆さんを含め、自らの問題として再発防止対策の徹底、定着化に、全力で取り組まなければなりません。ここでは、今回の事象を踏まえ、社員及び協力会社の皆さんに特にお願いしたいことを申し上げます。

第一に、今回のような安全に係る計算の仕事に限らず、全ての業務についてこれを実行するに当たっては、プロとしての誇りと責任感のもと、絶対に誤りを起こさないという集中力を持って取り組んでほしいと思います。

次に、その結果を確認・承認する立場の人、今回この方々の役割と責任も問われておりますが、この方々についても同様にプロとしての責任感と集中力を持ち、誤りがないか細心の注意を払ってチェックするようお願いいたします。

そして、その上で万一誤りが発生し、それに気付いた時には、是非、勇気を持って、上司、同僚、また、協力会社の方であれば当社社員へ言い出していただきたい。これは非常に勇気のいることではあります。しかし、勇気を持って言い出していただければ、皆でスクラムを組んで一体となって、知恵を出し合って解決に向けて取り組んでまいります。そうすることにより、この歴史的大事業に携わることの喜びをお互いに持つことができます。

私ども経営層は皆さんとともに、その勇気が報われる環境を、それは当社と協力会社間も含め、言い出しやすい環境のことですが、その環境の整備、確立に向けて努めてまいります。

社会の皆様様の安心と信頼を勝ち取るために、プロとしての誇りと責任感と集中力を持って業務を遂行し、勇気を持って誤りを言い出す風土・文化の創造と環境の整備が、私はこの事業の持続的発展の基盤であり、かつ、最大の資産であると信じます。どうか、皆さんも是非とも一緒に、主体的かつ積極的に取り組んでいただくよう、よろしく願いいたします。

以 上